

Q7

肺炎球菌ワクチンの接種状況について教えてください。

A

米国の高齢者（65歳以上）における肺炎球菌ワクチンの接種率は、平成9年（1997）には45%、平成11年（1999）には50%を超え、平成15年（2003）には64%と推計されています。平成22年（2010）には65歳以上の少なくとも90%が接種を受けることを目標にしています。この接種率は米国の高齢者（65歳以上）におけるインフルエンザワクチンの接種率と同程度に高率であり、これは米国疾病対策センター（Centers for Disease Control and Prevention：CDC）が、65歳以上の高齢者や肺炎球菌による重篤疾患に罹患する危険が高いハイリスクグループの人たちに、肺炎球菌ワクチンとインフルエンザワクチンを同時に接種するよう強く推奨していること、接種費用に関する公費助成が広く行われていることなどによると思われます。一方、わが国では昭和63年（1988）に肺炎球菌ワクチンの市販が開始されました。市販後10年間はあまり普及しませんでした。最近、本ワクチンに対する認識は急速に高まってきており、平成18年（2006）の接種本数は18万本を超えています。平成20年（2008）7月現在、全国75市区町村（特別区）（既に公費助成を終了、又は再検討に入っているところを含みます。）で肺炎球菌ワクチンの接種費用に対する公費助成が実施されています。しかしながら、接種率としては依然として4%未満であり、米国の接種状況とは大きく異なっています。